

GPS 安全性要約書

この GPS 安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み(GPS: Global Product Strategy)に基づいて、当社が販売する化学製品のリスク評価結果に関する情報の概要を一般社会に提供するものです。

この文書は、ヒトの健康や環境への影響あるいはリスク評価の詳細等の専門的な情報を提供するものではありません。また、安全性データシート(SDS)、または化学品安全性報告書(CSR)に代わるものではありません。本製品のお取り扱いに際しては、当社が発行する SDS をご確認ください。

記載内容は現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。

製品名 (PRODUCT NAME)

高純度イソフタル酸(PIA)

製品の概要 (GENERAL STATEMENT)

高純度イソフタル酸(PIA) は白色で無臭の結晶状粉末です。主に、工業用に広く用いられています。

製造時や使用等では安全性データシート(SDS)に基づいた適切な保護具の着用、局所排気の適用が推奨されます。国内では作業環境許容濃度は設定されていないため、リスク評価で用いた指標などを参考に、必要に応じてばく露濃度を管理・制御することが推奨されます。作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をするが推奨されます。

また、適切な排水処理設備を設置し、環境への負荷を最小化するために漏洩防止策を講じるとともに、定期的な監視や設備の保守点検が推奨されます。

化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

組成

| 名称 | CAS RN. | 官報公示 整理番号 | 含有量 | 備考 |
|--------|----------|--------------|---------|----|
| イソフタル酸 | 121-91-5 | (3)-1332 | 99.9 以上 | |

使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

| | |
|-----------|------------|
| 当社製品の主な用途 | ポリエステル変性用途 |
|-----------|------------|

物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

| | |
|--------------|------------------------------------|
| 外観(物理的状态) | 結晶状粉末 |
| 色 | 白色 |
| 臭気 | 無臭 |
| pH | 知見なし |
| 比重(相対密度) | 1.53(4°C) |
| 融点/沸点 | 345-348°C / 119-121°C |
| 可燃性/引火性 | 知見なし(推定値 624° F(329°C)) |
| 爆発範囲 | 0.035g/L (下限) |
| 自然発火温度 | 700°C |
| 蒸気圧 | 0.009kPa (100°C) |
| 蒸気密度 | データなし |
| 水溶解性 | 0.012g/100ml (25°C) |
| オクタノール-水分配係数 | Log Pow=1.66, Log Kow=-2.34 (pH=7) |
| 分解温度 | 分解せずに昇華する |

ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

| 影響評価 | 結果 (GHS ^{*1} 危険有害性分類) |
|------------------|---|
| 急性毒性(経口) | 一番低い区分とする十分な証拠が認められていない(区分外 ^{*2}) |
| 急性毒性(吸入) | (気体)当該区分での分類の対象となっていない(分類対象外 ^{*2}) (蒸気)当該区分での分類の対象となっていない(分類対象外 ^{*2}) (粉じん)毒性報告の十分な情報はありませぬ(分類できない ^{*2}) (ミスト)当該区分での分類の対象となっていない(分類対象外 ^{*2}) |
| 急性毒性(経皮) | 毒性報告の十分な情報はありませぬ(分類できない ^{*2}) |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 毒性報告の十分な情報はありませぬ(分類できない ^{*2}) |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | 一番低い区分とする十分な証拠が認められていない(区分外 ^{*2}) |
| 呼吸器感作性 | 毒性報告の十分な情報はありませぬ(分類できない ^{*2}) |
| 皮膚感作性 | 一番低い区分とする十分な証拠が認められていない(区分外 ^{*2}) |
| 生殖細胞変異原性 | 毒性報告の十分な情報はありませぬ(分類できない ^{*2}) |
| 発がん性 | 毒性報告の十分な情報はありませぬ(分類できない ^{*2}) |
| 生殖毒性 | 毒性報告の十分な情報はありませぬ(分類できない ^{*2}) |
| 特定標的臓器毒性(単回ばく露) | 毒性報告の十分な情報はありませぬ(分類できない ^{*2}) |
| 特定標的臓器毒性(反復ばく露) | 毒性報告の十分な情報はありませぬ(分類できない ^{*2}) |
| 吸引性呼吸器有害性 | 毒性報告の十分な情報はありませぬ(分類できない ^{*2}) |
| 備考 | ^{*1} GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals. 世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。 ^{*2} 区分外: 分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行って見たところ GHS で規定する危険有害性区分において一番低い区分とする十分な証拠が認められなかった場合。 分類対象外: GHS で定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていないもの 分類できない: 分類の判断を行うためのデータが全く、または分類するに十分な程度に得られなかった場合 |

環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

| 影響評価 | 結果(GHS ^{*1} 危険有害性分類) |
|-------------|--|
| 水生環境有害性(急性) | 一番低い区分とする十分な証拠が認められていない(区分外 ^{*2}) |
| 水生環境有害性(慢性) | 一番低い区分とする十分な証拠が認められていない(区分外 ^{*2}) |
| オゾン層への有害性 | 毒性報告の十分な情報はありません(分類できない ^{*2}) |
| 備考 | <p>^{*1} GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals. 世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。</p> <p>^{*2}</p> <p>区分外: 分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行って見たところ GHS で規定する危険有害性区分において一番低い区分とする十分な証拠が認められなかった場合。</p> <p>分類対象外: GHS で定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていないもの</p> <p>分類できない: 分類の判断を行うためのデータが全く、または分類するに十分な程度に得られなかった場合</p> |

| 環境動態 | 結果 |
|--------------|--|
| 環境中の移行性 | 水系からの揮発性は低く、土壌への吸着性も低いと推定される |
| 生分解性 | 生分解しやすい |
| 生物蓄積性 | 生物蓄積性は低いと推定される |
| PBT/vPvB の結論 | PBT、vPvB に非該当である |
| 備考 | <p>*PBT: Persistent, bioaccumulative and toxic(環境中に残留し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する)</p> <p>**vPvB: very Persistent and very Bioaccumulative(環境中に非常に残留しやすく、非常に高い生物蓄積性を有する)</p> |

ばく露 (EXPOSURE)

作業員および消費者、環境へのばく露は、以下の取扱い時におこる可能性がある。

| 詳細 | No. | 当社製品の主な用途におけるばく露の可能性(ばく露経路) |
|--------|-----|--|
| 作業員ばく露 | 1-1 | <ul style="list-style-type: none"> ・閉鎖系バッチでの合成あるいは調合作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等に、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性はある。 ・流出を最小化するように設計された条件での小容量コンテナへの物質や調剤の移し替え作業において、作業員への経皮・吸入ばく露の可能性はある。 |
| 消費者ばく露 | 2-1 | 消費者がばく露される可能性はほぼない |
| 環境ばく露 | 3-1 | 産業における物質の製造工程から、主に水環境へ放出される可能性がある |
| 注意事項 | | 他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施してください |

推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

| 詳細 | No. | 当社リスク評価結果に基づく推奨する管理措置 |
|-----------|-----|--|
| 対作業者ばく露 | 1-1 | <ul style="list-style-type: none"> ・PIA 製造、PIA の充填、樹脂コンパウンド製造の作業の際は、適切な保護具を着用する ・PIA 製造、樹脂コンパウンド製造の作業においては局所排気を適用する ・現在、国内では作業環境許容濃度は設定されていないため、リスク評価で用いた指標などを参考に、必要に応じてばく露濃度を管理・制御する。 ・作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をする。 |
| 対消費者ばく露 | 2-1 | 消費者がばく露される可能性はほぼない |
| 対環境ばく露 | 3-1 | <ul style="list-style-type: none"> ・適切な排水処理施設を設置する。 ・漏洩防止策を講じ、定期的な排出量の確認、日常管理、取り扱いに注意を払う。 |
| その他取扱注意事項 | | 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざける |
| 注意事項 | | <ul style="list-style-type: none"> ・通常での取扱い、緊急時対応、廃棄時、輸送時の管理措置は、SDS の 4, 5, 6, 7, 8, 13, 14 項を参照して下さい ・粉じん爆発の可能性がある。 |

(注) No.は「ばく露」記載箇所にある、それぞれの「ばく露の可能性」に対する管理措置を記載している

法規制情報／分類・ラベル情報

(REGULATORY INFORMATION / CLASSIFICATION AND LABELLING INFORMATION)

法規制情報

| 法律 | 規制状況 |
|---------------|------|
| 労働安全衛生法 | 適用なし |
| 毒物及び劇物取締法 | 適用なし |
| 化学物質排出把握管理促進法 | 適用なし |
| 消防法 | 適用なし |
| 船舶安全法 | 適用なし |
| 航空法 | 適用なし |

GHS 分類情報

| ハザード項目 | 分類結果(危険有害性情報) |
|----------------------|---|
| 可燃性固体 | 分類できない |
| 急性毒性(経口) | 区分外 |
| 急性毒性(吸入) | (気体)分類対象外 (蒸気)分類対象外 (粉じん)分類できない (ミスト)分類対象外 |
| 急性毒性(経皮) | 分類できない |
| 皮膚腐食性/刺激性 | 分類できない |
| 眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性 | 区分外 |

| | |
|---------------------|--------|
| 呼吸器感作性 | 分類できない |
| 皮膚感作性 | 区分外 |
| 生殖細胞変異原性 | 分類できない |
| 発がん性 | 分類できない |
| 生殖毒性 | 分類できない |
| 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | 分類できない |
| 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) | 分類できない |
| 吸引性呼吸器有害性 | 分類できない |
| 水生環境有害性(急性) | 区分外 |
| 水生環境有害性(慢性) | 区分外 |
| オゾン層への有害性 | 分類できない |

ラベル情報

| | |
|------------|--|
| 絵表示またはシンボル | なし |
| 注意喚起語 | なし |
| 危険有害性情報 | なし |
| 注意書き | <p>使用前に本安全データシート(SDS)に記載された全ての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。</p> <p>【予防策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。 ・屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。 ・取扱い後は手をよく洗うこと。 <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>【保管】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・容器は直射日光を避け換気の良い冷所に保管する。火気熱源より遠ざける。酸化剤ならびに酸化性の強い物質との保管は避ける。 <p>【廃棄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容物/容器を廃掃法などの法規制に従って廃棄すること。 ・空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分すること。 |

出典 (REFERENCES)

| |
|----------------------------------|
| 三菱ガス化学株式会社(2019)GPS/JIPS 対応リスク評価 |
| 三菱ガス化学株式会社作成 SDS(作成日 2014年7月25日) |

連絡先 (CONTACT INFORMATION WITHIN COMPANY)

| | |
|-------------|-----------------------------|
| 会社名 | 三菱ガス化学株式会社 |
| 住所 | 東京都千代田区丸の内2-5-2 |
| 担当部門・担当者 | 芳香族化学品カンパニー 芳香族第二事業部 |
| 電話番号/FAX 番号 | (03)3283-4808/(03)3214-0938 |

発行・改訂日 (DATE OF ISSUE / REVISION) その他の情報 (ADDITIONAL INFORMATION)

初版: 2019年3月29日発行

改訂:

| 改訂日 | 項目 | 改訂箇所 | 版 |
|-----|----|------|---|
| | | | |

特記事項:

なし